

# 愛媛県内のこども食堂をデジタルでつなげる 情報共有でこども食堂の持続可能な運営を支える



採択事業者名

サイボウズ株式会社

コンソーシアム構成員

サイボウズ株式会社／地域こども食堂ネットワーク

## 勉強会の実施概要

勉強会の目的	こども食堂におけるデータ活用の重要性を理解してもらい、システム活用の意欲を高める。また、食支援にかかわる関連団体へ本システムの認知を広げる。
勉強会の当初のゴール想定と結果	参加いただいたこども食堂のメンバーはシステムへの理解をいただいた。また、県外から参加いただいた団体の方にも、システムに関心を持っていただき、今後の展開に向けて関係構築ができた。
参加者	こども食堂運営者6名、社協関係者5名、食支援関係者3名、一般企業2名
協議アジェンダ	食支援に関する事例発表2件、座談会、システム紹介、こども食堂支援施策紹介
データに基づく協議ポイントの整理	食支援におけるロジスティクスの課題について、事例を踏まえて議論を実施。食の適切な配分においても、本システムを使った情報共有が活用できるとの認識を深めた。また、新施策のキャラバンにて、こども食堂の課題を収集する件についての協力依頼。
主なデータ項目	現在キャラバンにて各こども食堂の課題を収集中である旨を説明
協議におけるガイドライン(含む具体例)	食支援の現場において、企業からロジ拠点、ハブ拠点までの管理は、全国食支援活動協会のシステムにて確立しつつある。物理的には運送業者及び倉庫業者の協力が必要であり、各地域で協力してくれる事業者を募集中である。ハブ拠点からこども食堂や各支援先への情報共有については、まだ未整備の状況。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	こども食堂の困りごとヒアリングにおいても、ヒト・モノ・カネ不足が明らかになっている。寄付食材の適切な配分については、今回のプラットフォームが活用できると考えられるが、そのためにはさらにシステムの利用率を高める必要がある。



## データ活用・協議の具体例

重要指標例	・こども食堂の実態把握 愛媛県内のこども食堂も100団体を超えてきており、各こども食堂の運営状況など実態の把握が困難となってきている		
	実装前	実装後	
	データ取得	中間支援団体である、えひめ地域こども食堂ネットワークが、箇所数調査の目的でアンケート実施	えひめ地域こども食堂ネットワーク(うわじまグランマ)県内のこども食堂をキャラバンで訪問し、直接ヒアリングを実施
	データ利用	こども食堂の基本情報のみ収集(住所、活動有無、食数など)	こども食堂の設立経緯や、現状のお困りごとなどもヒアリングし、kintoneにてデータ管理
	実行	全国の中間支援団体である、むすびえによる箇所数調査のデータとして、件数把握にのみ活用	Kintoneに入力することで各こども食堂の困りごとの見える化につながり、各こども食堂への適切な支援を行う材料となる
協議	主にエリア毎の数を把握する事しか行っておらず、各こども食堂の運営の実態把握が行えていない	データを相互に共有することで、こども食堂同士の支援にもつながることが望ましい 中間支援団体が機能するためにもデータを活用することが重要	

## データ活用・協議による成果

こども食堂の上位レイヤとも言える食支援活動においても、情報共有プラットフォームが機能することで大きなメリットがあることを再認識できた。また、キャラバンについてはえひめ地域こども食堂ネットワークが主体的に活動しており、kintoneのアプリを自ら作成するなど、自走に向けての第一歩につながった。収集したこども食堂のデータ活用について、引き続き伴走を行っていきたい。